

# 東北地方の1か月予報解説資料(予報期間:10月20日~11月19日)

平成13年10月19日 仙台管区気象台

## 1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



- [気温]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。「低い」の可能性が次に大きく、その確率は30%です。「高い」の可能性は20%と小さい。
- [降水量]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は40%です。「少ない」と「多い」の可能性はそれぞれ30%です。
- [日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は40%です。「少ない」と「多い」の可能性はそれぞれ30%です。

## 2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

### 向こう1か月

天気は周期的に変わるでしょう。低気圧の通過後は寒気が入り、東北日本海側ではしぐれる所がある見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

向こう28日間の平年の晴れ日数: 東北日本海側約11日、東北太平洋側約17日

### 各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 高気圧に覆われおおむね晴れるでしょう。期間の中頃と終わり  
(10月20日~10月26日) 頃に気圧の谷の影響で曇る日もある見込みです。

平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数: 東北日本海側約3日、東北太平洋側約4日

2週目…………… 天気は周期的に変わるでしょう。低気圧の通過後は寒気が入り、東北日本海側ではしぐれる所がある見込みです。

平均気温は低いでしょう。

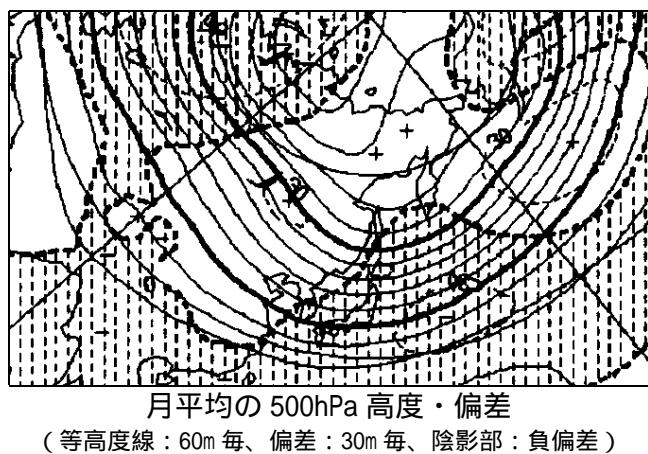
平年の晴れ日数: 東北日本海側約3日、東北太平洋側約4日

3~4週目…………… 天気は周期的に変わるでしょう。低気圧の通過後は冬型の気圧配置となり、東北日本海側ではしぐれる所がある見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数: 東北日本海側約5日、東北太平洋側約9日

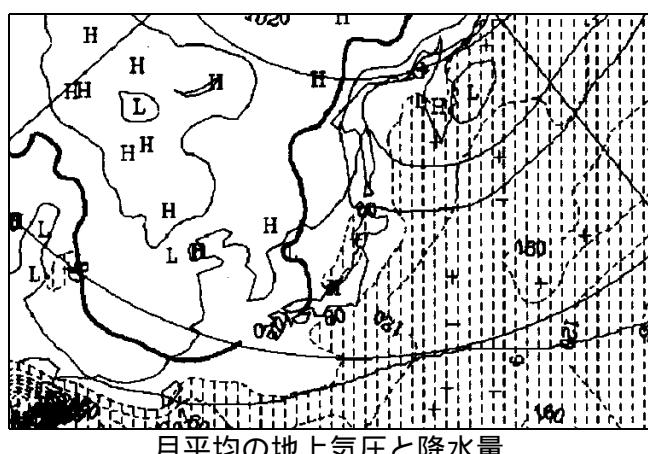
### 予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



#### ・ 500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、大陸は正偏差、日本付近から東は広く負偏差に覆われる。偏西風の流れは東西流が卓越しており、天気は概ね周期的に変化するが、寒気の影響を受けやすい。

週別（図略）では、1週目は日本付近は正偏差に広く覆われる。2週目は、日本付近はやや谷場で負偏差に覆われる。このため寒気の影響を受けやすい。3~4週目は日本付近は東西に広く負偏差におおわれる。

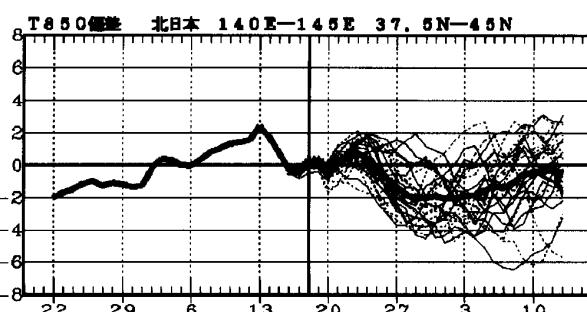


#### ・ 地上気圧と降水量

月平均で見ると、大陸に高気圧、カムチャッカ半島付近に低気圧。日本付近には特徴がなく周期変化が基調だが、低気圧の通過後に一時冬型の気圧配置になる見込み。

日本の東海上に広がっている降水域は東北地方にはからないが、北陸から北海道にかけての日本海側に弱い降水域がみられる。

週別（図略）では、2週目は月平均とほぼ同様。3~4週目は、日本の南岸から北東にのびる弱い降水域が東北地方にかかる。



#### 北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想

（縦軸 : 気温平年差 ( ) 横軸 : 日付 )

発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）  
の平均値

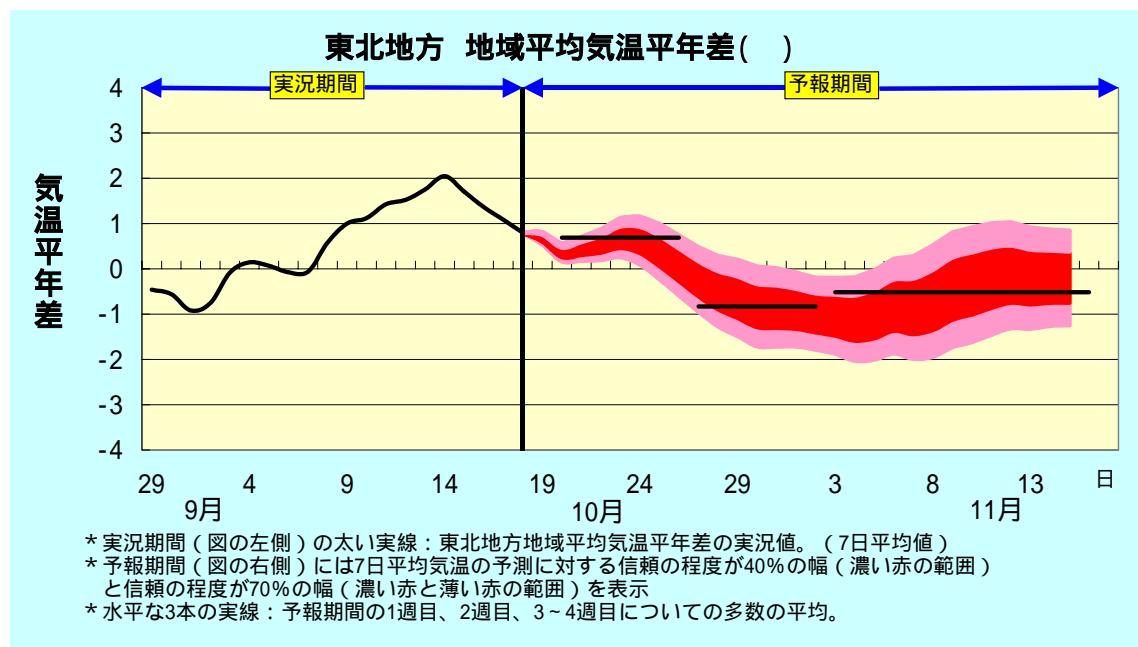
#### ・ 北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、1週目は平年並程度で推移するが、1週目の終わりから下降し、2週目は平年を大きく下回る。3週目以降は上昇し、平年並に近づく。

ただし、各アンサンブルメンバーはバラツキが大きい。

### 3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

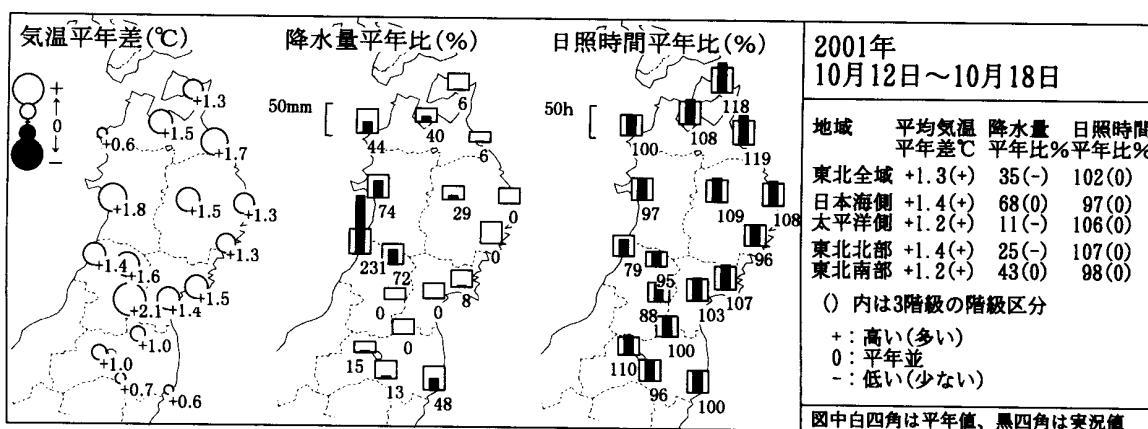
週別の気温は、1週目「高い」、2週目「低い」、3~4週目「低い」を予測している。  
予報は他の予想資料から3~4週目を「平年並」に修正する。1週目、2週目は予測どおり。  
なお、予報の信頼度は小さい。



### 4. 最近1週間（10月12日～10月18日）の天候の経過

この期間、天気は周期的に変化した。12～13日は日本海を進んだ低気圧や寒気の影響で東北日本海側を中心に曇りや雨となった。16～17日は気圧の谷や前線の影響で曇りや雨となつた。その他の日は移動性高気圧に覆われ概ね晴れた。

平均気温は、東北地方で平年差+1.3と高かった。降水量は、東北日本海側で平年比68%と平年並、東北太平洋側で平年比11%と少なかった。日照時間は、東北地方で平年比102%と平年並だった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）